

リフレクションを越えて —「教える」を学び、専門職の学びあいをほどこき、結びなおす—

杉 森 公 一（北陸大学高等教育推進センター）

1. はじめに

看護学教育は、個人の成長と専門性の向上だけでなく、看護に関わる業界全体のつながりを強化する重要な役割を担っている。従来のリフレクション（省察的実践）の手法を超え、より広範な視点で学びを捉え直す必要性が高まっている。「教える」を学び、専門職の学びあいをほどこき、結びなおすために、いくつかの枠組みを概観してみたい。

リフレクションを促すためには、個人で日誌をつける（ジャーナル）、先輩看護師・プリセプターによる指導やメンタリングを現場で受けながら学ぶ（On-the-Job Training: OJT）ことを行っているだろう。はたして、それだけでよいのだろうか。OJTの過程で新人看護師が経験と理論を関連づけて言語化することの難しさや、また、単一の専門職種の実践共同体の中に閉じてしまい、アンラーンを阻む（専門職としての技術的熟達か、かえって医療チーム内の隔たりを生む）ということが生じてしまうこともある。

2. 協働的ネットワークとLandscape of Practice

エンゲストロームの「協働的ネットワーク」やWenger-Traynerの「Landscape of Practice」論は、個人的なリフレクションを超えた学びの枠組みを提供している。これらの概念は、以下の点で重要である。

- ・複数の実践共同体間の相互作用の重視
- ・知識の境界を越えた学びの促進
- ・専門職間の協働と知識共有の強化

エンゲストローム（2018）は、人間の活動は、主体が対象に働きかける際に媒介する道具、ルール、コミュニティ、分業といった要素が絡み合いながらシステムとして機能するものと定義する（図1）。

演者が関わっている多職種・多業種カンファレンスでは、図1のように拡張する学習の要素として描くことができる。システム内外で生じる矛盾をきっかけに、システム内の要素を変革しながら要素間の関係を創っていく

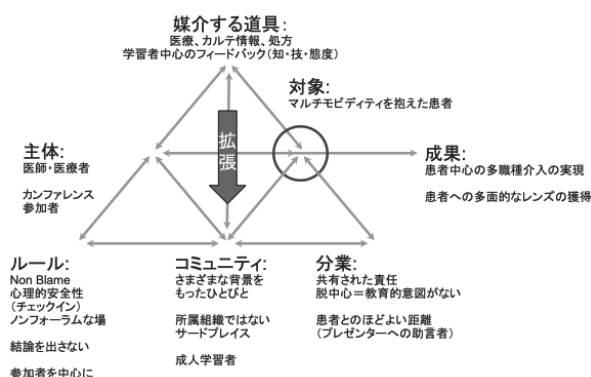


図1 多職種・多業種カンファレンスにおけるエンゲストロームの拡張する学習のシステム

ことを「学習」と呼び直すことになる。複数のシステム間での交渉と和解が生じるものを、さらに協働的ネットワーク（Collaborative knotwork）と呼び、私たちそれぞれが所属しているシステム同士が関与しあって学習を促進させていく。その一事例として、Elmberger（2020）は、多職種による臨床教育研修（Faculty Development）の参加者が、自分の職場（Workplace）へ変化をもたらす事例を報告している（図2）。これは複数の共同体を横断しながら、学びが解体し再生成していく Landscape

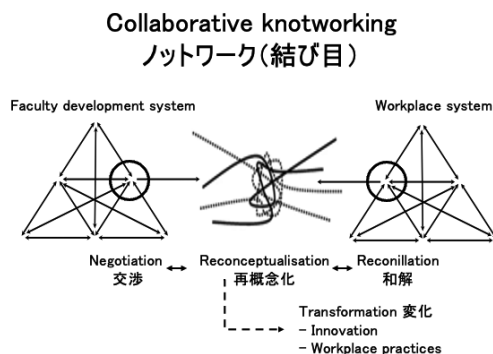


図2 臨床教育研修（Faculty Development）の参加者が、自分の職場（Workplace）へ変化をもたらす「協働的ネットワーク」の事例（Elmberger（2020））

of Practice 論 (Wenger-Trayner, E. et al. (2015)) での「個々の専門職を中心に組織された単一のコミュニティから、共有された目的によって集められたコミュニティへと焦点を広げ、学習者は様々なコミュニティに参加し、相互に作用する必要がある」(高橋2023) という主張とも似ている。別の表現では、越境学習やアンラーンとも言えるだろう。

3. 看護実践を多角的に捉えるために

さまざまなものの見方(レンズ)を獲得し、看護実践を立体化するためには、どのようなアプローチを取ることができるだろうか。エビデンスの多層性の理解、ナラティブアプローチの活用、量的・質的データの組み合わせ、フォーカスグループ等の質的研究手法の導入など、多様なアプローチを統合することが重要となる。これらを組み合わせることで、看護現象をより深く、多面的に理解することができるだろう。看護実践の先に達成される社会正義のために、多声的な「リサーチ」が織りなされる交響的編成(Orchestration)を、あらゆる人びとと結びなおしていく必要がある。

また、「教える」「学ぶ」という行為を解体し、再構築するアンラーン(学びほぐし)のプロセス(高橋ら(2023))は、既存の教育観や方法論の批判的検討、学習者中心のアプローチへの転換、協働的な知識構築の促進、テクノロジーを活用した新たな学習環境の創出を含んでいる。アウンは、『ROBOT-PROOF』の中で、「AI・ロボットにできないこと」が求められる時代を生きる私たちに、データリテラシーとともにヒューマンリテラシー(人間が備える創造力)の重要性も説いている。これから看護専門職の学びあいを再構築するために、個人のリフレクションを超えて、他者との協働(場合によっては、AIとの協働)を通じて新たな知識を創造する力を養うことが必要となるだろう。

4. まとめに代えて

ユネスコ学習権宣言(国際成人教育会議・1985年)は、「学習権」に関して、それを承認するか否かは、人類にとって、これまでもまして重要な課題となっている、としている。

学習権とは、

読み書きの権利であり、
問い続け、深く考える権利であり、
想像し、創造する権利であり、
自分自身の世界を読みとり、歴史をつづる権利であり、
あらゆる教育の手だてを得る権利であり、
個人的・集団的力量を発揮させる権利である。

改めて、私たちが専門職の領域の内外を超えて学びあうことが個と、その学びの価値が問われている。

本演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業などはありません。

参考文献

- Y・エンゲストローム(著)、山住勝広(監訳)(2018)『拡張的学習の挑戦と可能性：いまだにここにはないものを学ぶ』新曜社。
- Wenger-Trayner, E. et al. (2015) Learning in Landscapes of Practice: Boundaries, identity, and knowledgeability in practice-based learning, Routledge.
- 高橋美裕希(2023)「境界を越えて医療者教育の風景を描く」新しい医学教育の流れ, 23(3)116-118.
- Elmberger, A., Björck, E., Nieminen, J. et al. (2020) Collaborative knotworking - transforming clinical teaching practice through faculty development. BMC Med Educ 20, 497.
- J・E・アウン(著)、杉森公一ほか(訳)(2020)『ROBOT-PROOF: AI時代の大学教育』森北出版。
- 高橋平徳・内藤知佐子(編)(2019)『看護教育実践シリーズ5 体験学習の展開』医学書院。
- 松本雄一(2019)『実践共同体の学習』白桃書房。
- Roxã T. et al. (2015) Microcultures and informal learning: a heuristic guiding analysis of conditions for informal learning in local higher education workplaces. International Journal for Academic Development 20(2), 193-205.
- Hord S.M. et al. (2007) Leading Professional Learning Communities. Corwin Press.
- 杉森公一(2022)「グループワークをワーク(機能)させるには」週刊医学界新聞3497号, 医学書院。
- 杉森公一(2022)「学習環境を整えて、実践共同体を形成しよう」週刊医学界新聞3502号, 医学書院。
- 杉森公一(2022)「教師が学びあう専門職の学習共同体」週刊医学界新聞3507号, 医学書院。